

【Check - 評価】

(1) 前年度評価シートの改善内容の実施状況

平成19年度の改善予定	平成19年度の改善結果
「みんなが足を運びたくなる文書館」の実現を図るためには、図書館への来館者をいかに文書館に誘導し関心を持たせるかの仕掛けづくりが課題である。限られた人員での管理運営は避けられないため、いかに効率的な運営が行えるか実情をふまえて検討する。	必要最低限の人員で勤務ローテーションを組み、年間311日の開館を確保した。運営にあたっては、延べ173名のボランティアの協力を得ることができた。

(2) 事務事業の評価

評価の視点	評価のポイント	評価	理由
妥当性	事務事業を実施する必要があるのか	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当ではない	公文書館法に定める「適切な措置を講ずる責務」を果たす機関であり、情報公開制度と並んで町の説明責任を果たす役割を担っている。
	町が主体となって実施する必要があるのか	<input checked="" type="checkbox"/> 町が行わなければならない <input type="checkbox"/> 町が行った方がよい <input type="checkbox"/> 町が行うべき必然性が低い	公文書館は、公文書館法第5条により、地方公共団体が設置することになっている。資料の寄贈・寄託やボランティアの参加などは、町民と町との信頼関係によって成り立っているもので、町が主体で実施しない場合は、館運営が根底から崩れてしまう。
有効性	対象者の満足度や事業の達成度はどうか(成果指標の状況)	<input checked="" type="checkbox"/> 十分成果が上がっている <input type="checkbox"/> 成果は十分とはいえない <input type="checkbox"/> 成果は上がっていない	図書館との複合館となったこともあり、レファレンス件数、入館者数、ボランティア参加人数はいずれも増加しており、資料に興味を持つ人が増えている。
効率性	事業費に無駄はないか	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 適切だが改善の余地がある <input type="checkbox"/> 効率的でない	ボランティアとの協働を進めた結果、委託料や人件費の節減につながっている。

【Action - 改善】

(1) 事務事業を進めていく上での課題、解決に向けての改善内容

	課題	平成20年度	平成21年度以降
妥当性			
有効性	質の高いレファレンスサービスを提供する。	レファレンス記録をデータベース化し情報を共有する。	写真資料のデータベース化など、レファレンスツールを充実させる。
効率性	複数の専門スタッフの確保や研鑽が必要である。	19年度に引き続き最低限の人員で勤務ローテーションを組み図書館と同じ開館日数を維持する。	当面は再任用職員の配置を検討する。専門職資格制度確立の際は、取得をめざす。

(2) 事業の今後の方針(課長による評価)

活動指標の目標	<input checked="" type="checkbox"/> 高める <input type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	取り扱う資料の点数は高めるべきである。
成果指標の目標	<input checked="" type="checkbox"/> 高める <input type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	レファレンスは文書館のサービスで最も重要なので、増やすべきである。
事務事業の方向性	<input type="checkbox"/> 方法改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小・廃止・終了 <input type="checkbox"/> 統合
理由・内容	今の事業の進め方が適切と思う。